東京都立埋蔵文化財調査センター　平成 31 年度企画展示

ひと×いきもの

HUMAN and LIVING THINGS

2019 3.21 木・祝 → 2020 3.08 日

ひと×いきもの＝獲

【とる】
【hunting】

HUMAN and LIVING THINGS

いつの時代でも動物は人々にとって貴重な資源でした。特に狩猟採集に頼っていた縄文時代の人々にとっては、食糧としてはもちろんのこと、生活に必要な道具の素材としても欠かすことができなかったのです。

それを示すように、動物を獲るための道具は数多く見つかり、種類も様々です。また、食べたり、身を飾ったりなど、いろいろな用途で利用されていた証拠も見つかっています。

Animals were valuable resources, especially for the Jomon People, who were dependent on hunting and gathering. Animals were not only food, but they were also materials for tools needed in daily life.

獲る・漁る

矢じりや槍、銛先などは、柄の先端につけて狩猟具や漁労具として使われました。石錘や土器の破片を再利用した土器片錘は、魚を獲る網につける重りでした。さらには、狩猟用の陥し穴なども見つかっており、様々な道具や方法を駆使して動物を獲っていたことが分かります。

左：槍先形尖頭器 [多摩ニュータウン No.388 遺跡]
後期旧石器時代末～縄文時代草創期　約 17,000 ～ 15,000 年前
東京都教育委員会所蔵
右：石鏃 [多摩ニュータウン No.72 遺跡]
縄文時代中期　約 5,000 年前
東京都教育委員会所蔵

陥し穴断面 [多摩ニュータウン No.243 遺跡]
縄文時代早期～前期頃
カムフラージュのための蓋や、底に立てた竹が検出された唯一の例です。

左上：土器片錘　左下：石錘 [多摩ニュータウン No.72 遺跡]
縄文時代中期　約 5,000 年前
東京都教育委員会所蔵
右：骨製銛 [西ケ原貝塚]
縄文時代後期　約 4,000 年前
北区飛鳥山博物館所蔵

食べる

貝塚からは動物の骨がたくさん見つかります。シカ、イノシシといった大・中型の動物はもちろん、タヌキ、テンなど小型の動物、キジやハクチョウなどの鳥類、そして魚貝類や海獣類、ウミガメなどの爬虫類といった海の動物まで、実に多くの種類の動物を獲って食べていました。

貝塚出土各種動物骨［西ヶ原貝塚］
縄文時代後期　約 4,000 年前
北区飛鳥山博物館所蔵

左上：イノシシ下顎骨　右上：ウミガメ背甲
左下：シカ下顎骨　右中：ハクチョウ上腕骨
右下：テン下顎骨

使う・飾る

動物を獲るのは、肉を食べるためだけではありません。皮も貴重な資源として活用しました。石匙を使ってきれいに剥ぎ取り、石錐で穴をあけ、骨針で縫うなどして、様々な形で利用していました。

骨や角、牙、貝も大事な資源でした。加工しやすく、丈夫であることから、矢じりや銛などの狩猟・漁労具だけでなく、腕輪や髪飾りなどの装飾品にも利用されていました。また、土器には骨や貝でつけた独特な模様が見られます。

骨や貝で作られた道具［西ヶ原貝塚］
縄文時代後期　約 4,000 年前
北区飛鳥山博物館所蔵
左上：イノシシ牙製鏃　中上：骨製髪飾り
右下：イタボガキ製垂飾　左下：貝刃　中下：ベンケイガイ製貝輪

左：石匙　中 2 点：石錐［多摩ニュータウン No.72 遺跡］
縄文時代中期　約 5,000 年前
東京都教育委員会所蔵
右 2 点：骨針［西ヶ原貝塚］
縄文時代後期　約 4,000 年前
北区飛鳥山博物館所蔵

左：魚骨文土器［多摩ニュータウン No.450 遺跡］
縄文時代前期　約 6,500 年前
東京都教育委員会所蔵
中：貝殻腹縁文［多摩ニュータウン No.200 遺跡］
縄文時代早期　約 8,500 年前
東京都教育委員会所蔵
右：貝殻条痕文［多摩ニュータウン No.200 遺跡］
縄文時代早期　約 8,500 年前
東京都教育委員会所蔵

ひと×いきもの＝採

HUMAN and LIVING THINGS

【とる】
【gathering】

植物も、人が生きていく上で、欠くことのできない貴重な資源です。古くから人は、数多くの植物の種類や、それぞれの葉、茎・幹・蔓、根、花、実の特徴などを伝え続けることで、衣食住に関する様々な恵みを得てきたのです。

Plants were valuable resource. People had knowledge of many types of plants and the characteristics of their leaves, stems, vines, roots, flowers, and fruits. By passing on those knowledge, people were able to gain various blessing of nature.

実・根

縄文時代の人々にとって、クリやクルミなどの堅い実は、長期に保存ができる大切な食糧でした。根の一部に栄養を蓄えるノビルやユリ、そして各種のイモ類も貴重な食糧です。これらを掘り出すときにも使われた打製石斧は、内陸の遺跡に多く出土する傾向が認められます。

打製石斧 [多摩ニュータウン No.72 遺跡]
縄文時代中期　約 5,000 年前
東京都教育委員会所蔵

鱗茎付着土器片 [下宅部遺跡]
縄文時代晩期　約 3,000 年前
東村山ふるさと歴史館所蔵

土器に付着した鱗茎の炭化物

鱗茎 (ユリ根)

幹

木は、器から建物にいたるまで、様々なものを作り出す素材として、人のくらしを大きく支えてきました。丹念に石を磨き上げて作られた大小の石斧は、縄文の人々の木材加工技術が非常に進んでいたことを示しています。

磨製石斧 [多摩ニュータウン No.72 遺跡]
縄文時代中期　約 5,000 年前
東京都教育委員会所蔵

漆

ウルシの木から染み出す樹液「漆」は、湿気に反応して固まる不思議な特徴があります。縄文の人々もその特徴を知っており、幹に傷をつけて漆を集め、塗料や接着剤として利用していました。下宅部遺跡からは、漆を採ったときの傷が残る木や漆を塗る際のパレットとして用いられた土器の底の部分も見つかっています。

漆利用に関わる遺物［下宅部遺跡］　都指定有形文化財
縄文時代後・晩期　約 4,000 ～ 3,000 年前
東村山ふるさと歴史館所蔵

左：漆掻き取り痕の残る木　右：漆付着土器

茎・蔓・葉・竹

糸や縄は、主に草の茎から取り出した繊維を撚って作ったものですが、この技が縄文時代以前に遡ることは、草創期の土器に縄文がすでにつけられていたことからも明らかです。土器に残された痕跡からは、他にも様々な植物利用の形があることが分かります。例えば、大きな葉は、そのままで便利な皿や敷物になります。底についた痕からは、藤やアケビの蔓、茎を細く割いた竹やササなどを編んで籠や敷物を作る技術も非常に発達していたことが分かります。また、竹などを用いた簡単な道具だけで、驚くほど多彩な文様をつける技を編み出していたことも分かります。

網代の痕がついた土器の底部片［多摩ニュータウン No.72 遺跡］
縄文時代中期　約 5,000 ～ 4,000 年前
東京都教育委員会所蔵

植物を用いた土器文様
上：竹管文［多摩ニュータウン No.72 遺跡］
　縄文時代中期　約 5,000 ～ 4,000 年前
　東京都教育委員会所蔵
左：縄文［多摩ニュータウン No.72 遺跡］
　縄文時代中期　約 5,000 ～ 4,000 年前
　東京都教育委員会所蔵
右：撚糸文［多摩ニュータウン No.72 遺跡］
　縄文時代中期　約 5,000 ～ 4,000 年前
　東京都教育委員会所蔵

撚糸文は、縄を細い軸に巻きつけたもの（絡条体）でつけた文様

ひと×いきもの＝育

HUMAN and LIVING THINGS 【そだてる・はぐくむ】【grow・breed】

植物栽培が縄文時代に遡ることが明らかになってきましたが、日本列島で本格的に稲作・畑作中心の生活に転換しはじめたのは、今から 2,500 年ほど前のこと。弥生時代の始まりです。

田や畑を耕し、動物を飼育するようになると、食糧が安定的に供給されるようになり、社会は大きく変化しました。首長を中心とするクニが生まれ、古墳時代以降の中央集権国家の成立につながっていくのです。

It has became clear that plant cultivation dates back to the Jomon Period. However, it was about 2,500 years ago that people began to live mainly on rice cultivation in Japan, which marks the start of the Yayoi Period. The spread of agriculture and livestock breeding enabled secure food supply, which changed the society drastically. Small polities lead by chiefs, *Kuni*, emerges, which leads to the formation of the centralized state, *Wa* (倭) or *Yamato* (大和).

馬

もともと日本列島には馬はいませんでしたが、大陸から持ち込まれ、５世紀以降本格的に飼育されるようになりました。馬は農耕、移動、運搬などの労働力として、また、戦でも活躍しました。奈良時代 (約 1,300 年前) には律令制によって全国に馬を飼育する牧 (＝牧場) が作られました。

多摩丘陵にも入り組んだ地形を利用して牧が作られていたと考えられています。周辺の遺跡からは馬具の一部も出土しています。

稲城市瓦谷戸窯跡 B 号窯で見つかった馬の線刻画
(稲城市教育委員会提供)

稲

稲作農耕の技術は、大陸から九州北部に伝わり、徐々に東進していきました。弥生時代中期頃 (約 2,000 年前) には関東地方に伝わります。多摩丘陵でも多摩ニュータウンの遺跡から発見された弥生時代中期の土器の破片に、稲と粟の圧痕が見つかり、この頃から稲や雑穀の栽培が始まっていたと考えられます。

多摩ニュータウン No.235 遺跡　古墳時代の畑跡

発酵

「発酵」の発見により、人は保存食や調味料、酒などを作る技術を手に入れました。それがいつだったのかはさだかではありませんが、縄文時代にはニワトコ・ヤマブドウ・サルナシ・ヤマグワなどの果実で酒を作っていたとも言われています。

発酵が菌によるものであると気付き、目で見ることができたのは、17 世紀に精度の良い顕微鏡が発明されて以降ずっと後のことでしたが、それまでは、目に見えなくても発酵の力を知っていて、様々な利用を行なっていたのです。

文献からは酒をはじめとし、味噌・醤油・酢など日本食に欠かせない調味料や漬物・塩辛などの加工食品は、奈良時代には作られていたことが読み取れます。

四谷一丁目遺跡は、JR 四ツ谷駅近くにあった江戸時代の町屋の遺跡です。ここからは味噌や酒造りに必要な麹を育てるための「麹室」が 26 群 100 室も見つかりました。江戸の市中で発酵食品作りが行なわれていたのです。また醤、味噌、納豆などの容器蓋や荷札なども発見されています。

四谷一丁目遺跡で発見された江戸時代の麹室

容器蓋『納豆』[四谷一丁目遺跡]
江戸時代
東京都埋蔵文化財センター保管
※現在の甘納豆のようなもの

麹蓋 (麹を育てるためのパレット) 出土状況 [四谷一丁目遺跡]
江戸時代

「さいかや彦右衛門殿　伊藤毘左衛門」
「〔ヤマ〕き印上々吉赤味噌正味弐拾貫め入」
「七十四／名古屋堀詰町／あみ〔や〕」
「上々味噌正味弐拾貫め入」

味噌を送った時の荷札 [四谷一丁目遺跡]
江戸時代
東京都埋蔵文化財センター保管

ひと×いきもの＝友

HUMAN and LIVING THINGS

【とも】
【friend】

皆さんにとって犬とはどのような存在ですか？犬が好きだ、大切な家族の一員である、という人も多いはず。実は、犬は人類最古の家畜と言われています。世界では約 30,000 年前、日本では約 9,500 年前の遺跡から、家犬とされる犬骨が報告されており、人と長く共にあったことが分かっています。展示されている縄文時代早期と江戸時代の埋葬犬骨は、7,000 年ほど離れた資料ですが、どちらも丁寧に葬られています。時代が違っても、人にとって犬とは「友」であったのでしょう。

Dogs are the oldest domestic animal. Dog remains dated 30,000 years ago are found in Europe, while the oldest dog remain found in Japan dates for 9,500 years ago. The dog remains displayed are both burial remains. One is from the Edo Period (18C-19C) and the other is from the Initial Jomon Period (ca. 5,200 BC). Although the two dogs lived in different periods, they were both buried carefully, suggesting how important they were.

日本最古の犬埋葬例

愛媛県久万高原町上黒岩岩陰遺跡から出土した 1 号犬、2 号犬は国内最古の埋葬犬骨として知られています。約 7,200 年前、縄文時代早期末から前期初頭の頃に埋葬された犬です。

1 号犬の体高が約 38cm、2 号犬が約 41cm であったと推測されます。現代の柴犬と同じぐらいの大きさですが、骨の特徴から柴犬よりも逞しく、鋭い顔をしていたと考えられます。

上黒岩岩陰遺跡の埋葬犬には生前に歯が抜け、歯槽が閉じた状態 (生前欠歯) が認められます。これはイノシシなどの大型陸獣の狩猟の際、獲物に噛み付いて抜け落ちた外傷痕だと考えられています。

埋葬犬骨には骨折を治した例もあります。怪我を負っても大切に飼われ、死後は丁寧に埋葬されている事例から、縄文人は猟犬として活躍した犬に、ある種の「敬意」を払って、葬ったとも考えられます。

上黒岩岩陰遺跡出土 1 号犬頭骨、四肢骨
(佐藤孝雄氏提供)

上黒岩岩陰遺跡出土 2 号犬 生前欠歯の様子
(佐藤孝雄氏提供)

愛媛県久万高原町上黒岩岩陰遺跡出土 埋葬犬骨
縄文早期末～前期初頭　約 7,300 年前
慶應義塾大学民族学考古学研究室寄託
万高原町教育委員会所蔵

埋葬犬骨出土状況
(久万高原町教育委員会提供)

2 頭のうち 1 頭が側臥屈葬の状態で埋葬されている。当時の調査では、埋葬人骨の隣から出土したと言われています。

江戸時代の飼い犬

江戸時代の武家屋敷が発見された汐留遺跡からはたくさんの大小様々な犬の骨が見つかりました。犬種も多様だったことが分かっています。

展示された埋葬犬骨は、体高約 48cm の中型犬で、現生の紀州犬に類似した華奢な犬だったと推測され、10 歳前後の雄犬と思われます。

汐留遺跡で飼われていたのは愛玩犬だけでなく、猟犬もいました。大名の狩りに用いられていたと思われます。また、汐留遺跡から見つかっている犬種の中には、日本犬だけでなくダックスフントやポインターと思われる西洋犬の骨もありました。当時は鎖国中であったため、珍しい西洋犬は重宝されていたのでしょう。

埋葬犬骨 [汐留遺跡]
江戸時代 (18 世紀)
東京都教育委員会所蔵

ひと×いきもの＝愛

HUMAN and LIVING THINGS 【めでる・いとおしむ】【love・admire】

いきものは利用価値の高い資源として扱われてきましたが、次第に、愛され、愛おしまれる存在にもなっていきました。人々は、身近におくために、動物を飼い、植物を育てるようになりました。

人はいつしか、愛しい動物たちの人形も作るようになりました。また、人の身近にいた動物たちは、思わぬところで偶然の産物を生み出すこともありました。

During prehistoric times, people have used living things as valuable resources. Gradually it became common to admire them.
People started to keep living things nearby. Keeping pets and gardening were prevalent in Edo, and sometimes they would even make small dolls to adore.

飼う　育てる

庭園の池の底で見つかった２匹のカメです。多量の砂で池ごと埋まっていました。海辺にあった屋敷のことです、高潮などの被害に遭ったのでしょう。

池の規模は小さく、下級藩士や屋敷に勤める使用人のためのものと考えられています。いきものを飼い、愛でていたのは、殿様や上級藩士だけではなかったのです。

仙台藩上屋敷で飼われていたカメ［汐留遺跡］
江戸時代　18 世紀以降
東京都教育委員会所蔵

江戸時代中頃の園芸の流行によって植木鉢は、大名から庶民まで広く普及しました。

素焼きの鉢は育苗用、美しい陶磁器の鉢は植物を引き立てるための大事な小道具でした。

左：磁器染付の植木鉢　江戸時代　19 世紀前半～中葉
右：素焼きの植木鉢　江戸時代　18 世紀中葉
［旗本花房家屋敷跡遺跡］
東京都教育委員会所蔵

この頃には小鳥の飼育も大流行しました。街には小鳥屋が店を構えるようになり、餌猪口（餌入れ用）や餌擂鉢（すり餌の調製用）などの飼育道具があちこちに出回りました。

左：餌猪口［旗本花房家屋敷跡遺跡］　江戸時代　18 世紀中葉～後半　東京都教育委員会所蔵
右：餌擂鉢［四谷一丁目遺跡］　江戸時代　19 世紀中葉　東京都埋蔵文化財センター保管

動物モチーフの人形［愛宕下遺跡・旗本花房家屋敷跡遺跡］
江戸時代
東京都教育委員会所蔵

① イヌ（沖抱き童子）
② ネコ（招き猫）
③ キツネ（稲荷狐）
④ ニワトリ
⑤ キツネ
⑥ サル
⑦ サル
⑧ キツネ
⑨ イヌ
⑩ シカ
⑪ サル
⑫ サル
⑬ ネコ
⑭ サル
⑮ ハト（鳩笛）
⑯ ウサギ
⑰ ネズミ
⑱ オシドリ
⑲ ウシ（紅牛）
⑳ ミミズク
㉑ カメ
㉒ セミ
㉓ イヌ

①～⑮・⑲～㉓：愛宕下遺跡
⑱～⑲：旗本花房家屋敷跡遺跡

人形たち

江戸時代に作られた様々な動物の人形です。役割も多様で、飾ったり遊んだりするものだけではありませんでした。

例えば、「稲荷狐」はお稲荷様のお使いとして祀られ、「招き猫」は招福、「セミ」は長寿を願う縁起物でした。また、「紅牛」は「小町紅」という口紅の景品として配られたものでした。

足跡

焼塩壷の蓋にくっきりついた足跡は、ネコのものと思われます。足跡がついたのは土器を焼く前ですから、乾かしている間に踏んでしまったのでしょう。工房の中を自由気ままに歩き回るネコの姿が目に浮かぶようです。

動物の足跡がついた焼塩壷蓋［内藤町遺跡］
江戸時代　18 世紀前半
新宿区教育委員会所蔵

刷り物にも

鼻筋の通った細長い顔とフサフサの尾から、描かれているのはタヌキだと思われます。

しっかりした木材を使っていますが、細工が粗いところを見ると専門の職人の手によるものではないのかもしれません。

版木と刷り物のイメージ［溜池遺跡］
江戸時代　18 世紀前半
東京都教育委員会所蔵

ホンドタヌキ
「縄文の村」にて 2013 年撮影

ひと×いきもの＝祀

【まつる】
【deify】

HUMAN and LIVING THINGS

動植物や自然現象を崇拝の対象とすることは世界中の先史社会の中で確認されています。日本でも、縄文時代の土器や土製品の中に、動物の姿形を表したと考えられるものが見つかっています。彼らはいきものに対して一体どのような思いを持っていたのか、探ってみましょう。

Animism can be seen in pre-historic societies all over the world, so as in the Jomon Period. Animal motifs of Jomon pottery may have had a special meaning to the Jomon People.

ヘビ

縄文時代中期前半頃の関東西部から甲信地方の土器には、ヘビを表したと考えられる文様が多く認められます。中でもこの土器は、口縁部に２匹のヘビが向かい合う姿が写実的に表現されています。

ヘビは脱皮をすることから成長や再生の象徴として、時には毒を持つ脅威として、古くから特別視されていました。この土器にも、そんな想いが込められているのでしょう。

双蛇把手土器［多摩ニュータウン No.67 遺跡］
縄文時代中期前半　約 5,000 年前
東京都教育委員会所蔵

サンショウウオ

この土器の胴部に横たわる太く盛り上がった文様は、何に見えますか。一説には、清流に棲むサンショウウオと言われています。その寿命の長さにあやかろうとしたのでしょうか。

カエルなど、水辺のいきものを表したと考えられるものも見つかっていることから、水がもたらす恵みに感謝の念を表した可能性も考えられます。

勝坂式土器［多摩ニュータウン No.72 遺跡］
縄文時代中期前半　約 5,000 年前
東京都教育委員会所蔵

前左・後：獣面土器
[多摩ニュータウン No.174 遺跡]
縄文時代前期　約 6,000 年前
東京都教育委員会所蔵

前中：獣面土器 [多摩市 No.9 遺跡]
縄文時代前期　約 6,000 年前
東京都教育委員会所蔵

前右：獣面土器 [多摩ニュータウン No.90 遺跡]
縄文時代前期　約 6,000 年前
東京都教育委員会所蔵

イノシシ

イノシシも、縄文時代の造形にしばしば認められます。前期後半頃の土器に施された顔面装飾は、とてもユーモラスな表情を見せてくれています。中期後半のムラから出土した土製品は、イノシシを象ったものとしてはかなり早い段階の事例です。

イノシシは、一度に４～５頭の子どもを産む多産の象徴として知られています。自らの繁栄の願いを、その生命力に託していたのでしょう。

イノシシ形土製品 [多摩ニュータウン No.471 遺跡]
縄文時代中期前半　約 4,500 年前
東京都教育委員会所蔵

ひと×いきもの＝祀

【まつる】
【deify】

HUMAN and LIVING THINGS

いつの世も、人は翼を持ち空高く飛び交う鳥に憧れを抱いていたようです。また同時に、特別なものとも感じていたのではないでしょうか。

鳥を象った把手を持つ縄文土器や鳥の姿が描かれた弥生時代の銅鐸、鳥を象った古墳時代の埴輪、さらには平安時代の鳥形木製品など、様々な時代の祈り・祀りや葬送などの儀礼の中に、鳥に因んだ道具を見ることができます。

People seem to find special meanings in birds, which fly high in the blue sky. In various eras, motifs of birds can be seen in ritual objects. For example, Jomon Pottery with bird-shaped handles, Yayoi doutaku with carving of birds, bird-shaped haniwa which surrounded the Kofun, and bird-shaped effigies used in ritual practice in the Heian Period.

鳥形把手（勝坂式？）［多摩ニュータウン No.9 遺跡］
縄文時代中期中葉（約 5,000 年前）
東京都教育委員会所蔵

動物意匠把手（加曽利 E 式）［多摩ニュータウン No.72 遺跡］
縄文時代中期中葉（約 4,500 年前）
東京都教育委員会所蔵

象徴としてのいきもの

鳥を象った把手を持つ土器は、縄文時代中期末葉から後期初頭にかけて多く見られ、他の動物の意匠はほとんど見られません。

しかし、左の鳥形把手は文様や施文方法から、中期前半に遡ると考えられます。この時期には蛇や人面を象った例は多く見られますが、鳥の意匠は稀有な例といえます。

一方、右の把手は縄文時代中期末葉の例ですが、口の形、鼻腔の位置などから鳥ではないようにも思えます。

どちらの土器も「動物の意匠を持つ土器」としては例外的なものですが、縄文人の動物に対する考え方を知る上で、重大なヒントを与えてくれているのかもしれません。

4,200 年間の孤高

縄文時代中期末葉から後期初頭にかけて、鳥を象った把手を持つ土器が多く見られるようになります。

特にこの土器は、見晴らしの良い尾根の頂部にポツンと単独で発見されました。何らかの祭祀の際に据えられ、特別な想いが込められたものだと考えられています。

称名寺式土器 [多摩ニュータウン No.920 遺跡]
縄文時代後期初頭　約 4,200 年前
東京都教育委員会所蔵

天高く昇る魂

古墳、すなわち古墳時代の有力者のお墓には、埴輪をはじめとする様々な祭具が並べられ、葬送の儀礼が行なわれていました。埴輪の中には鳥を象ったものもあります。

亡き人の魂を天上へと誘う (神の) 使いと考えられていたようです。

※応神陵古墳：考古学では、誉田御廟山古墳とも呼称される。

水鳥埴輪 [伝 応神陵古墳]
古墳時代　5 世紀初～前半
学習院大学史料館所蔵

これでも鳥です

この鳥を象った木製品は、古代の河川から、祭祀に用いられたと思われる須恵器や下駄、弓、斎串などと共に発見されました。

鳥は邪気を祓うとされることから、災いを除けるための祭祀に用いたと考えられています。

※斎串：薄い板や細い角材、さらには木の枝などを串状に削った祭具。神を招く依代、神への供物や除災などの意があるとされる。

鳥形木製品 [日野市日野市 No.16 遺跡]
平安時代　9 世紀～ 10 世紀前半
日野市教育委員会所蔵

協力機関・協力者一覧　敬称略・五十音順

本企画展示開催にあたり、下記の機関、並びに関係者の方にご指導・ご協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

稲城市教育委員会　学習院大学史料館　北区飛鳥山博物館
久万高原町教育委員会　慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室
国立国会図書館　新宿区教育委員会　東京動物園協会
東京都江戸東京博物館　東京都教育委員会　東村山ふるさと歴史館
日野市教育委員会　姫路市埋蔵文化財センター　広島県教育委員会

小黒恵子　遠部慎　鈴木直人　佐藤孝雄　千葉敏朗
栩木真　長佐古美奈子　平田健　宮本涼子

この冊子は、東京都立埋蔵文化財調査センター平成 31 年度企画展示『ひと×いきもの』の解説冊子として作成しました。

平成 31 年度企画展示『ひと×いきもの』
平成 31 年 3 月 29 日発行
編集・発行　公益財団法人東京都スポーツ文化事業団　東京都埋蔵文化財センター
〒 206-0033　東京都多摩市落合 1-14-2　電話 042-373-5296